

きずな

2025 11 November

今号の題字

椎葉村立大河内小学校 6年

(き)椎葉 理来さん、(ぎ)椎葉 理於さん、(な)岩崎 結斗さん



子ども神楽



御神(ごしん)の滝



臼太鼓

僻遠の地で伝統芸能を受け継ぐ
10名の大河内っ子
椎葉村立大河内小学校(小島琢哉校長・児童数10名)は、村中心部より約32km離れた南端の地にあります。校区内に九州大学宮崎演習林もあり、九州では珍しい北国の樹木も確認されるなど、豊かな自然を有しています。郷土芸能として「大河内神楽」と「臼太鼓踊り」があります。特に、大河内神楽には他の地区とは異なる雅な趣があり、毎年、見学者が多く訪れます。本校の児童も「子ども神楽」を毎年奉納しています。

地域住民の学校に対する思いは熱く、全戸にPTA会員として合同運動会や学習発表会等の教育活動を支えていただいています。来年の2月には創立150周年記念式典を予定しており、現在、地域や保護者の皆様にご協力をいただきながら準備を進めています。

僻遠の地で伝統芸能を受け継ぐ
10名の大河内っ子

【教頭
若松 健二】

CONTENTS

- ② 宮崎県PTA連合会リーダー研修会
コラム「三輪車」
- ③ 日本PTA全国研究大会石川大会
- ④ 日本PTA九州ブロック研究大会福岡市大会
- ⑤ 三行詩
宮崎県PTA新聞コンクール募集
宮崎県PTA研究大会 都城市・三股町大会
日本PTA九州ブロック研究大会宮崎大会
- ⑥ トピックス「小林市立細野小学校」
編集後記



宮崎県PTA連合会
ホームページ



編集・発行：宮崎県PTA連合会

発行責任者：二見 志信

宮崎市旭1丁目3-10 婦人会館2階 Tel:0985(22)3081 FAX:0985(20)9443

<http://www.miyazakikenpta.com> E-mail: mken-pta@io.ocn.ne.jp

リーダー研修会

令和7年
7/26土
JA AZM
ホール

令和7年度宮崎県PTA連合会リーダー研修会
が114名の参加で行われました。主な参加者は、
県内の各小中学校のPTA会長・副会長です。

Q1. どんなことが行われたのでしょうか？

はじめに「PTAハンドブックの活用」第71回
日本PTA九州ブロック研究大会宮崎大会「こど
も110番」について全体研修会が行われました。
その後、「私たちが求めるPTAのかたちとは？」
と題し、安藤長氏（宮崎市立小松台小学校前PTA
会長）が講演されました。

Q2. 講演会は、どんな内容だったのでしょうか？

PTA活動の現状と課題意識、「一人役制」の
廃止と「ボランティア制」の導入、「ボランティア制」
導入後のPTA活動、導入時に懸念していた課題、
「私たちが求めるPTAのかたち」についてお話し
されました。

Q3. 小松台小学校がPTA活動ボランティア制 の実現に至るまでは、どのような歩みだったの でしょうか？

- 「ボランティア制」導入のステップ
- R3.7 学校及び執行部内で議論、合意形成
- R3.9 各委員会正副部長との議論、合意形成
- R3.11 保護者へのアンケート
- R4.1 保護者向け説明会の開催
- R4.4 ボランティア制の試験的な実施
- R6.2 ボランティア制の正式実施を問う
- PTA臨時総会の開催
- R6.4 PTA総会での規約改正
→ボランティア制の正式な実施

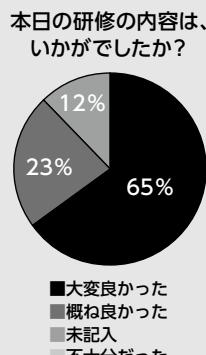
（講演会資料「私たちが求めるPTAのかたちとは？」参照）

Q4. 講演後の流れを教えてください。

講演後は3会場に分かれ、これからPTA組織
の運営やPTAの諸課題等について同規模の学校
でグループを作り、情報交換会を行いました。
参加者の皆さんは活発に話し合い、互いが抱えて
いる問題について情報を共有し発表していました。



参加者のアンケートから
（回収率 93/108名 85.9%）



「子どもを真ん中に」
地域と歩む美々津小学校の
これから

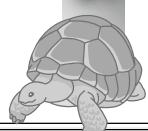
PTA会長 塩月充

本校は日向市の南部に位置し、自然
豊かな環境に囲まれた小学校です。
創立151年を迎える伝統ある学校
で、地域と共に歩んできた歴史があり
ます。地域の中でも子どもたちを育てて
いく、そんな温かいつながりをもう一
度取り戻したいと考えています。

児童数の減少により、地域と学校
との関わりが薄れ、学校行事以外での
接点が少なくなってきた。そこで
「子どもを真ん中に」という思いを大切
にし、小学校を基点とした地域づくり
を目指して、2年前に地域協働部を立
ち上げました。その活動の一環として
マルシェを企画し、昨年初めて開催。小
学校区を中心に案内したところ、区外
からの来場者もあり大きな盛り上がり
を見せました。

そこで、今年は開催を年2回に増や
し、市内全域に向けて小学校の魅力を
伝えたいと思い発信しています。そこ
には学校・保護者・地域がともに子ど
もを育てる環境づくりを進めたいとい
う願いが込められています。

将来、今の子どもたちが大人になっ
たときに「自分の子どももこの学校に
通わせたい」と思えるような場をつく
るために、今の親がその種まきをして
いきたいと考えています。



ミミ 親がめ子がめ

大会スローガン

「サステナブルな未来づくりのために」
～創造と協働を 石川から～

分科会

令和7年 8月22日(金)

全体会 令和7年 8月23日(土)

石川県内 8分科会

石川県立音楽堂・サテライト7会場



全体会

宮崎県PTA連合会会長 一見志信

開催地である石川県は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震や同年9月に発生した奥能登豪雨により、能登地方を中心に大きな被害を受け、現在でも爪痕が残り復旧や復興が進んでいない場所も多く存在します。関係者の皆様が多大な苦労と葛藤を抱えながら準備を進められたことと思います。

全体会は石川県立音楽堂コンサートホールをメイン会場に、他の分科会会場をオンラインで結び分散開催されました。

記念講演では石川県の浅野大介副知事が「能登の創造的復興と学びの環境～学習環境の魅力化～」をテーマにご講演いただきました。浅野副知事は経済産業省に25年間勤務。

2019年にはGIGAスクール構想を推進し、教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）や個別最適な学習環境の実現に尽力した方です。ご自身も保護者としてPTA活動や地域行事に参加することで教科等横断・探求的な学びの重要性を感じられたとのこと。能登地方での探求学習の事例をご紹介くださいました。

変化の激しい時代において、持続可能な未来を描くために家庭・学校・地域の橋渡し役としてのPTAの存在意義を再確認し、その在り方をアッピーデートしていく必要があります。来年度は奈良県での大会開催が予定されていました。多くの皆様と再び学びを深められることを心より願っています。



「子供の意欲を高める家庭教育
～子供は家でこそわがままであれ～」

児湯郡PTA協議会会長 長尾広則

「不登校」についての説明がありました。共通点として、少年犯の専門家の視点から「非行」と

て、当事者である子ども達は、学校や保護者の期待に応えられないことへの後ろめたさがあり、大人に支援を求めるにいくと、いうことでした。また、子どもの人権を守ることの重要性が示され、保護者であつても侵害できない子どもの人権があり、自分の意

志で生き方を決めさせ、保護者はサポートに徹することが最大の人権保護だと言わっていました。「わがままを聞くことと叶えることはイコールではない」「子どもが失敗する経験を保護者が奪つている」という言葉が心に響きました。

次に、「現代の子どもと家庭教育の現状」というテーマで、パネルディスカッションが展開されました。その中でも「不登校」について、多くの時間が費やされました。子どもの不登校に悩みを抱いている保護者から切実な質問や、不登校経験のある保護者の当時苦しかった胸の内や心の叫びなどが紹介され涙を流しながら真剣に聴いていました。

家庭教育に正解や答えなどないと思っていました。子どもと一緒に悩みながら共に成長していくスタンスが肝要だと感じました。



第1分科会

子供の豊かな学びを実現するために
～創造と協働のある学びをサポートする～

串間市PTA協議会会長 谷口佑介

加賀市の前教育長島谷氏の講演を聞きました。従来の授業の形をなくし、生徒一人一人に向き合ふ個人の自主性を伸ばしてゆく政策には驚かされると同時に、周囲を巻き込みながら進められた改革が加賀市の教育界に浸透していることに加賀市の本気度と柔軟性を感じました。

教育アドバイザー・土藤氏の講演の中で「日本と韓国には不登校の子どもは大勢いるが、欧米にはいな

い」という言葉に、とても驚きました。日本では学校

で、当事者である子ども達は、学校や保護者の期待に応えられないことへの後ろめたさがあり、大人に支援を求めるにいくと、いうことでした。また、子どもの人権を守ることの重要性が示され、保護者であつても侵害できない子どもの人権があり、自分の意

志で生き方を決めさせ、保護者はサポートに徹することが最大の人権保護だと言わっていました。「わがままを聞くことと叶えることはイコールではない」「子どもが失敗する経験を保護者が奪つている」という言葉が心に響きました。

次に、「現代の子どもと家庭教育の現状」というテーマで、パネルディスカッションが展開されました。その中でも「不登校」について、多くの時間が費やされました。子どもの不登校に悩みを抱いている保護者から切実な質問や、不登校経験のある保護者の当時苦しかった胸の内や心の叫びなどが紹介され涙を流しながら真剣に聴いていました。

家庭教育に正解や答えなどないと思っていました。子どもと一緒に悩みながら共に成長していくスタンスが肝要だと感じました。

サステナブルなPTA活動を構築するために
～今、改めてPTAの存在意義を問う～

北諸県郡PTA協議会会長 長井のぞみ

元PTA会長の東川氏の講演から始まりました。PTA活動を始めた頃に「子どもの手本となるように横断歩道を渡ろうと思った」と語られ、次に「PTAの歴史」や「持続可能なPTA」について述べられました。立場は異なつても平等であり「責任を分け合うことが大切」と強調されました。

後半は、東川氏をコーディネーターに迎え、3名のパネリストとともにディスカッションが行われました。教育基本法にある「人格の完成」を目指すためには、家庭・学校・地域で対話し、アイデアを共有しながら一人一人が「できること」に関わることが期待されていると述べられました。

私も役員・生徒・先生・保護者・地域の方との対話を進め「自分にできる」と考えていました。



第70回日本PTA九州ブロック研究大会



福岡市大会



1日目・分科会

令和7年 10月18日(土)

福岡市内4会場

2日目・全体会

令和7年 10月19日(日)

マリンメッセ福岡A館

大会スローガン

UP! PTA!

これからの未来を描くPTA



九州各県から約4,500人のPTA関係者が集い、10月18日(土)・19日(日)の2日間で福岡市大会が開催されました。

1日目の第1分科会「組織・運営」では、諸塙村立諸塙小学校のPTA会長甲斐宣人さんが「諸塙村の子供の未来に願いを込めて「未来のためにPTAができること」という演題で提言発表を行いました。令和8年度末に予定されている荒谷小学校との統合後のPTA組織体制の見直しや、学校・地域との連携の在り方等の課題について話されました。村一丸となつての子育ての取組を聞き、会場が温かい雰囲気になり、同じ課題を持つ学校から共感する意見や質問がありました。また、各分科会の最後には、来年開催の宮崎大会PR動画を流し、横断幕やのぼり旗を掲げてキャラバン隊が元気いっぱいにアピールしました。

2日目の全体会では、各表彰が行われ、大

会宣言・決議文が採択されました。閉会式では福岡市から次期開催地の宮崎県に大会旗が引き継がれ、前日に引き続き宮崎大会のPRを行いました。その後俳優で料理の分野でも活躍されている速水

もこみち氏が、「食の道～料理は最強のコミュニケーション～」という演題で記念講演を行いました。盛会のうちに福岡市大会が幕を閉じました。

一、家庭教育はすべての教育の出発点であることを再認識するとともに、保護者の「学びバ」とPTA活動を未来につなげるために努めます。

一、子供たちの健やかな成長と保護者のよりよい学びのために、PTA活動を未来につなげるために努めます。

一、子供たちの可能性を最大限に引き出せるよう、教育におけるデジタル改革を行い、その可能性の追求に努めます。

一、子供たちの可能性を最大限に

引き出せるよう、教育におけるデジタル改革を行い、その可

能性の追求に努めます。

一、家庭・学校・地域との連携・協

働をより一体化するために、PTAの情報発信・広報の未来

の仕組み作りに努めます。

※大会配付資料より抜粋



宮崎大会実行委員長 持原特之
第70回日本PTA九州ブロック福岡市大会において、次年度開催となる宮崎大会のPRのために、県内PTA会員と共にキャラバン隊として参加しました。

各分科会や全体会で、四千人を超える九州各地のPTA会員の皆さんに向け、宮崎県の風土や豊かな自然、おいしい食べ物、そして温かい県民性を紹介しました。そして大会スローガン「新しいつながりの一步を宮崎(ひなた)の地から「子どもの未来を明るく照らすSUNとー」を掲げて「宮崎大会で待つちよるよ」と呼びかけました。

来年10月、日本のひなた宮崎県で、笑顔とおもてなしの心で皆さまをお迎えいたしましょう。どうぞご協力をよろしくお願ひいたします。

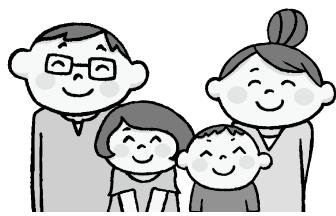
*

宮崎大会キャラバン隊

*

三行詩入選作品紹介

「家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ」をテーマにした三行詩募集に、県内の小中学校より439点の応募がありました。その中から県内審査を通過した作品15点を、日本PTA全国協議会へ推薦しました。



【小学生の部】

みんなでたべると
おいしいね
まほうみたいだ
ふしぎだな

甲斐慶大／荒谷小学校

パパとママとのじかん
にこにこえがお
いつぱいあそぶ

甲斐音羽／美郷北義務教育学校

ネットより
家族で雑談
楽しいな

河野桜／夏尾小学校

寂しい時も、
苦しい時も、
命はいつもかがやいて、
みんなの未来を照らすんだ

大村心桜／夏尾小学校

かなしい事があつた時
家族はいつも
味方してくれる
私の心の充電器

東星乃叶／都城市立江平小学校

【中学生の部】

この命
世界に1つの
オリジナル

前原惟吹／細野中学校

命に感謝
あたりまえじやない
今の時間

田村梨美／岡富中学校

あたたかい
家族はいつも
味方だよ

河島結芽／岡富中学校

家族との
笑える時間は
宝物

甲斐歩／岡富中学校

「ありがとう」
何気に言えないこの言葉
感謝は言葉で伝えよう

大平侑／細野中学校

【一般の部】

「スマホは7時までね」って
あなたが言つたのに、
気づけばスマホ片手に
うとうとしてる。
子どもと一緒に、
ルールもゆるく守ろうか。

河野弥生／夏尾小学校

帰宅後のギュード
で伝わる
今日の頑張り

上森千穂／荒谷小学校

かかと落としにラリアット
睡眠妨害されることもある
けど
いつまで一緒に寝てくれる
かな、小3の息子よ

鬼塚実千代／大宮小学校

反抗期の子供
腹立つも
成長したかと思う日々

那須真由美／三納小中学校

食卓を囲むひとときの
だんらん
何気ない言葉のキヤツチ
ボールで知る
我が子の心情

大村友美／夏尾小学校

第67回宮崎県PTA研究大会 都城市・三股町大会

未来を育む、人間力ある大人たちの挑戦 ～子どもに頼りにされる大人を目指して～

- 日時／場所 … 令和7年12月6日(土)／都城市総合文化ホール 大ホール
- 研究発表 … 諸塙村立諸塙小学校PTA／都城市立山之口中学校PTA
- 講演 … 「波乱万丈物語」 米良 美一 氏

第71回日本PTA九州ブロック研究大会 宮崎大会

新しいつながりの一歩を ^{ひなた}宮崎の地から
～子供の未来を明るく照らSUNと！～

分科会 令和8年10月24日(土) 宮崎県内5会場

全体会 令和8年10月25日(日) シーガイアコンベンションセンター

第46回宮崎県小・中学校 PTA新聞コンクール募集の お知らせ

今年4月から年内に発行したPTA新聞(広報紙)をご応募ください。

申込詳細は、きずな11月号と一緒に学校へお届けしている文書や県Pホームページでご確認ください。

【応募締切】令和8年1月9日(金)

【応募先】宮崎県PTA連合会事務局

子どもを真ん中に 地域・保護者・学校の一人三脚で進む細野小学校

～細野小PTA活動について～

【小林市立細野小学校】（中條 隆裕校長 児童数232名）

細野小学校は児童数232名、PTA戸数163戸の中規模校です。細野地区は小林市の南西部に位置し、田畠や山林が広がる自然豊かな環境です。

校区内にある霧島岑神社での六月燈祭りには、子ども達が描いた灯籠が数多く並び、訪れる方々の楽しみの一つとなっています。

また、まきばの桜祭りでは、約千本のソメイヨシノがつくる桜のトンネルの素晴らしい眺望、地元園児による出し物や吹奏楽部の演奏があります。他にも6年生が「LoveなH.S.N.プロジェクト」を起案し、細野まちづくり協議会と協働して、桜並木の沿道にハート型のオブジェと手作りのベンチをフォトスポットとして設置するなど、地元を盛り上げています。

6月と10月に行われる親子校内美化作業では、多くの保護者や子ども達が参加し、運動場や校門周りの除草、トイレ清掃や窓ふきなど、学習環境の整備を行っています。



灯籠の絵貼り付け(六月燈祭り)

※平成30年細野まちづくり協議会事務所が校内に開設されました。

細野小・細野中学校と合同で行う行事

等も多く、6月には親睦を目的としてPTA小中合同ソフトバレーボール大会が行われました。6月下旬には防災を考える日として、小学校・中学校・細野まちづくり協議会が協力し、参観日「ほそのっこ防災フェスタ」を実施しました。

小学校を会場に、非常食の試食・水消火器体験・煙体験等9つのブースを通して、防災意識を高める良い機会となりました。



新聞紙スリッパ作り



水消火器体験

ます。

小中合同で家庭

教育学級を実

施することによ

り、地域の方・中

学生等と広く関わる機会となっ

ています。第一回

目は、みやざき家庭教育サポートプログラムを活用し、親子がふれあいながら取り組

める内容としました。中学生の参加も多く、会場に笑い声があふれる時間となりました。



第1回小中合同家庭教育学級

「道は、どんな時も射場では感情を出しえはならない武道です。全国大会優勝決定アワーンスに拍手が起りますが、観覧席から見えていた彼女達は表情つを変えました。しかし、退場し、射場から二歩出た瞬間泣き崩れたそうです。最後まで弓道人であろうとした姿勢に、保護者の私達もグッと胸が詰りました。」

西村

あの猛暑の季節が過ぎたと思ったら、秋をあまり感じることなく冬になってしまいました。夏バテならぬ「冬バテ」というものもあることを聞きビックリ。子育てで慌ただしい毎日ですが、ちょっとだけ冬のリラックスタイムを楽しんで、毎日を過ごそうと思っています。

田中

娘が生まれてから今までたくさん「なぜ?」に答えてきましたが、年齢が上がるにつれ「なぜ?」の難易度が上がってきてきました。改めて調べると親としても勉強になる内容もあります。今後は親子で一緒に考え娘の思考力を育んでいこうと思っています。

西尾

リーダー研修会の取材で学び得た2つのこと。それは、「温故知新」と「合意形成」。加速度的に変化し、多様な価値観を尊重する現代での「新しい挑戦」では、過去を生かし、心と心を重ね合わせながら未来を切り拓くことがマストとなるでしょう。次号での学びも楽しみです。

佐藤